



新得町の未来をデザインする： 基本構想審特別委員会 レポート

令和8年からの「第9期総合計画」策定に向けた、議会と行政の対話

全会一致で可決された「新得の新しい羅針盤」

議案第90号「新得町基本構想」の審査。目指すのは「人がつながり、未来につなげる、心地よいまち」。



教育・インフラ

将来を見据えた教育環境の整備。
学校施設のICT化と老朽化対策を推進。
町内全域での超高速ブロードバンド網の維持、
と、公共交通の再編による利便性向上。
食育を通じた地域食材の活用と健康増進。



人口・強靭化

人口減少対策としての移住・定住促進。
子育て支援の充実と、多世代交流拠点の創出。
防災・減災対策の強化と、
災害に強いまちづくりの推進。
コミュニティの維持と地域防災力の向上。



エネルギー・環境

再生可能エネルギーの地産地消。
森林資源の持続可能な利用と、
木質バイオマスの導入促進。
ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組み、
と、豊かな自然環境の保全・継承。



築41年。学校給食センターの限界と町民の声

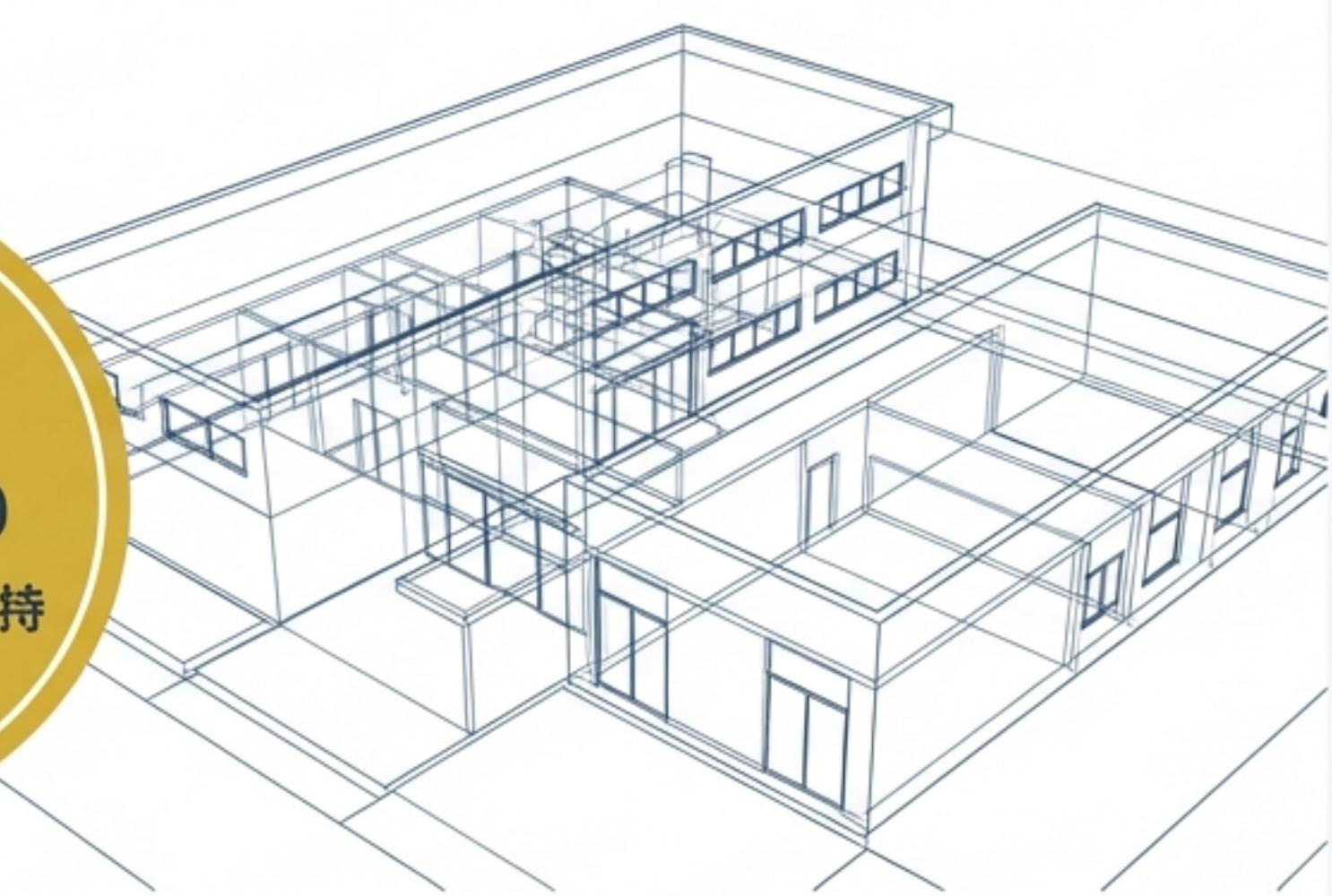


住民アンケート
約63%

が地元での建替を支持

現在のセンター：老朽化と修繕の限界
(41年経過)

Tokachi Blue
未来の選択：広域連携か？単独建て替えか？



議論：地元の自律性 vs 行政の慎重姿勢



村田委員（議会）

「早急に建て替えを」

- ・備品コストが無駄になる前に土台を作るべき
- ・他町と組むより、地元には地元の良さがある

vs

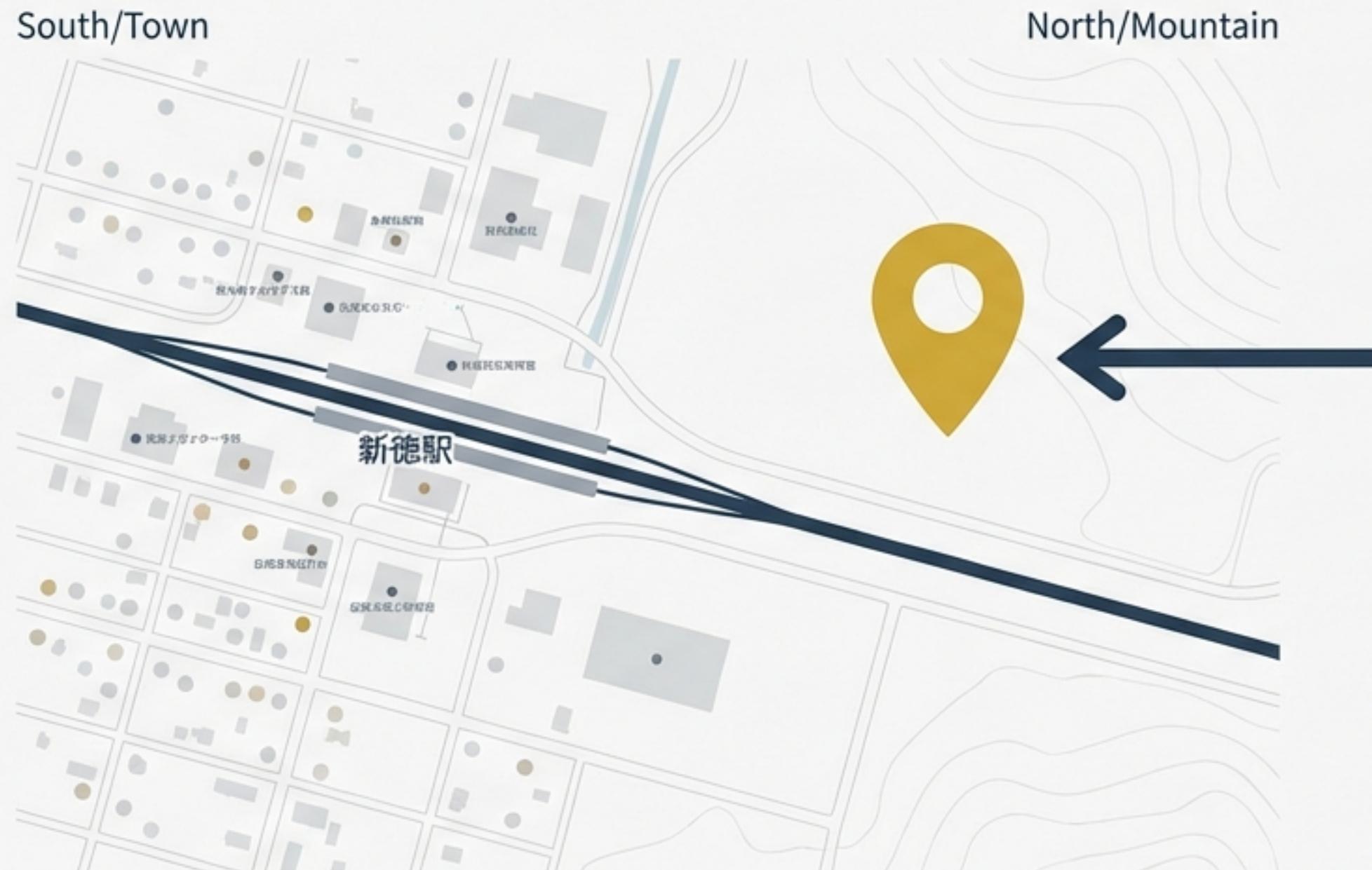


岡田学校教育課長（行政）

「コンセプトを含めて
これから検討」

- ・「広域」も選択肢として情報は収集する
- ・新得町にとって何が望ましいか慎重に研究

単なる調理場ではない。「サロン」としての機能



新・給食センター構想

【提案】地域の人が集えるサロンスタイル

- ・「今日は給食の日」として住民に開放
- ・線路北側（山側）のコミュニティ拠点不足を解消
- ・災害時の炊き出し拠点（防災機能）

2070年の衝撃

3,285人

令和52年（2070年）
推計人口

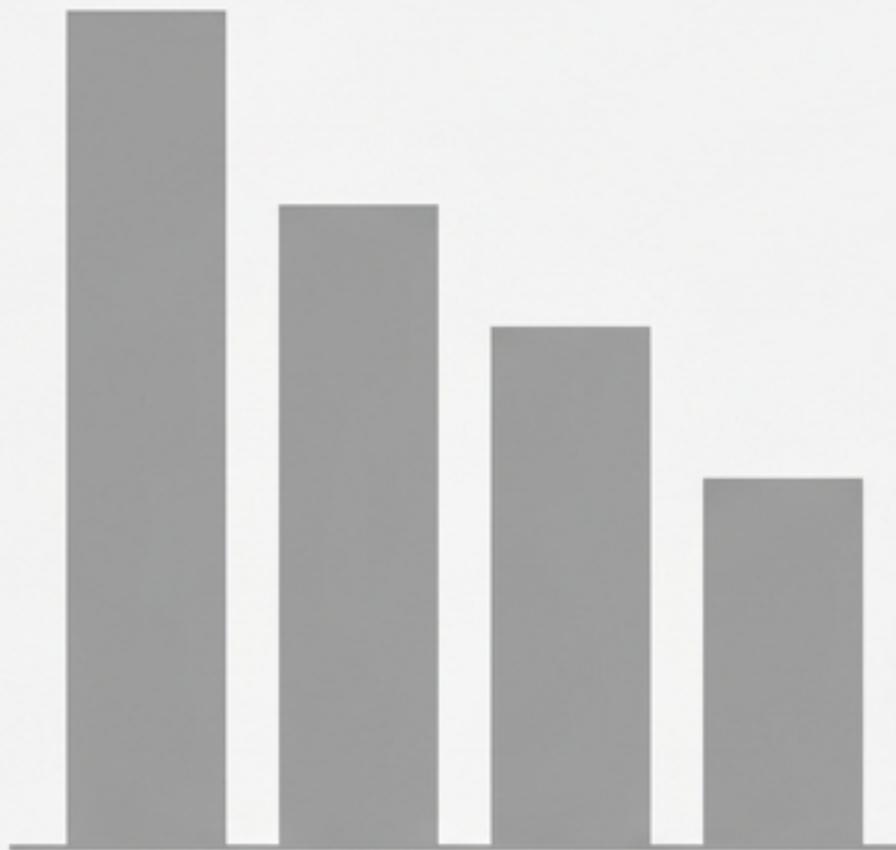
国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づく現実

「44年後の数字を見せられると、すごく寂しい気持ちになる。私はおそらくこの世にはいない。しかし、人口が減っても福祉や行政サービスは維持できるのか？」

（森本委員）

規模の追求から、

「持続可能性」の追求へ



人口の規模 (Quantity)

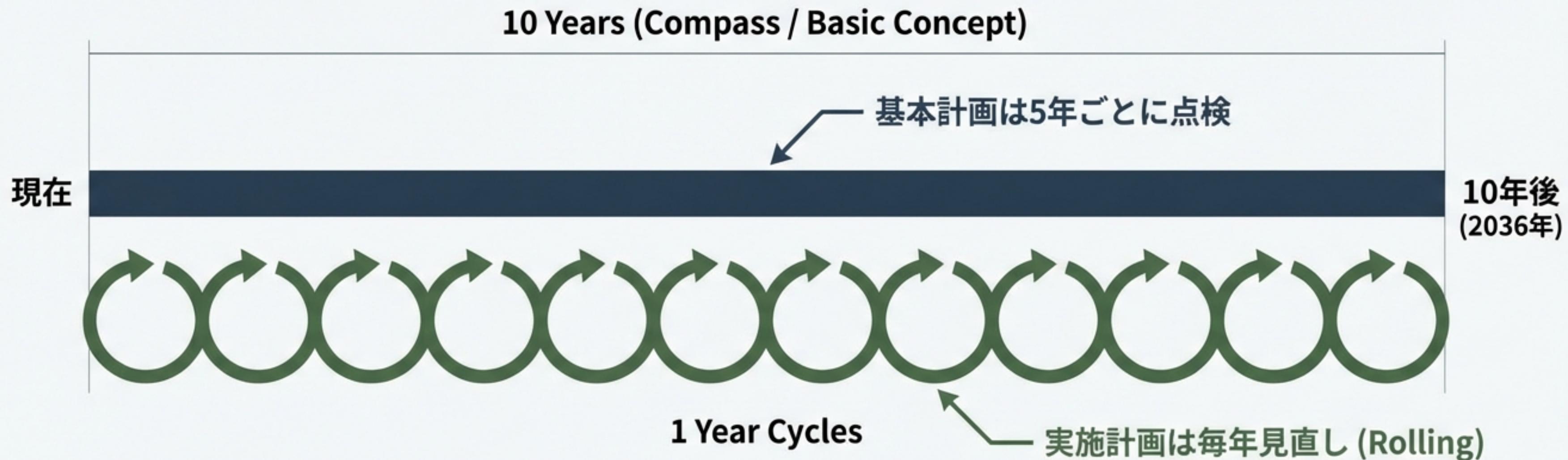


生活の質 (Quality)

福原地域戦略室長の方針：

「数字だけに囚われない。たとえ人口が減っても、『人がつながり、未来につなげる
心地よいまち』を作ることが目的。」

激変する時代に対応する「ローリング方式」



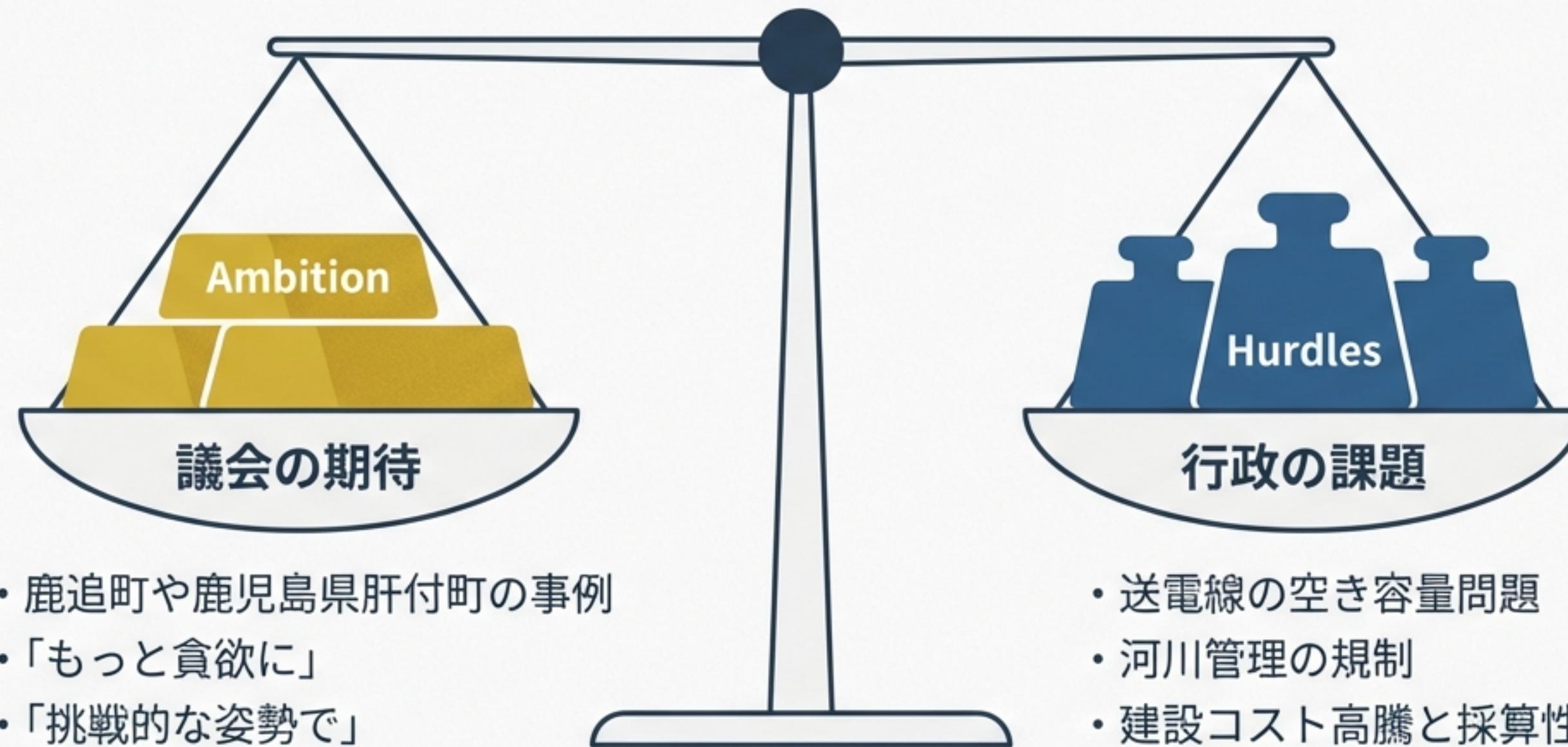
44年先の予測は不可能。だからこそ、大きな方向性（羅針盤）は固定し、足元の計画は柔軟に書き換えていく。

新得町には「エネルギー」がある。

豊富な資源がありながら、取り組みが「遅れている」のではないか？（青柳委員の指摘）



議論：挑戦か、現実か。

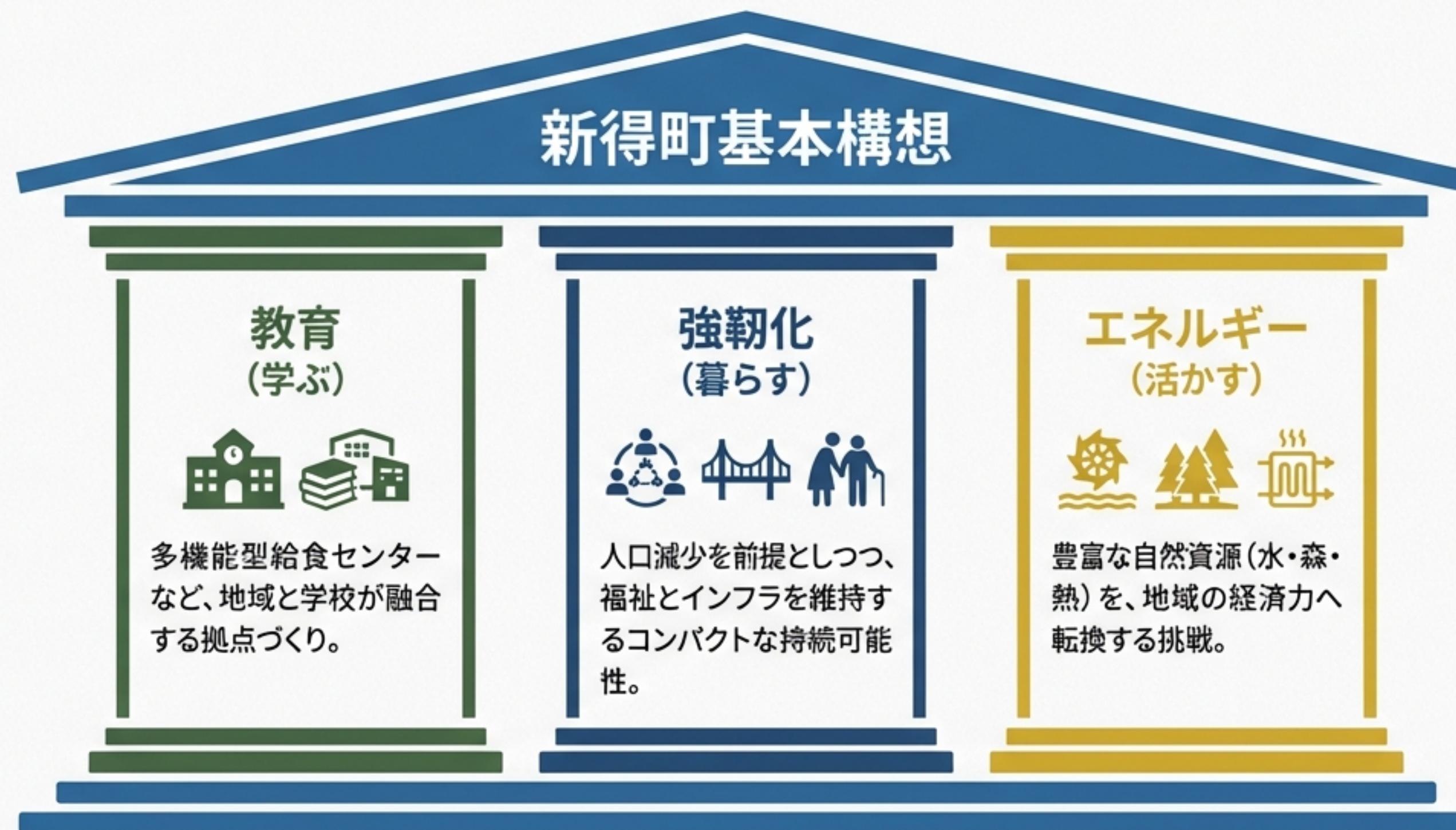


エネルギーの地産地消こそ、最強の経済対策



困難があっても「打開する」姿勢が必要。
これまでの答弁の域を出ない慎重姿勢からの脱却が求められている。

第9期総合計画：3つの柱



採決の結果：全会一致で可決

令和7年議案第90号 「新得町基本構想」



厳しい指摘や懸念（給食の場所、人口減の寂しさ、エネルギー政策のスピード感）はあったが、最終的な方向性は共有され、委員全員の賛成により承認されました。

誰もが学び、未来を育む町へ

基本構想はゴールではなく、スタートです。

毎年の実施計画（ローリング）を通じて、町民一人ひとりの声がこの計画を育ていきます。

共に、新得の未来を描き続けましょう。

共に、新得の未来を描き続けましょう。

出典・参照

【ソース】

会議名：新得町基本構想審査特別委員会
日時：令和8年（2026年）1月20日 午後
映像提供：北海道十勝新得町議会
公式YouTubeチャンネル

【主な発言者】

[委員]
村田委員（給食議論）
森本委員（人口議論）
青柳委員（エネルギー議論）

【説明員】

岡田学校教育課長
福原地域戦略室長